

国勢調査調査票の新旧対照表

資料 3 - 5

平成12年国勢調査	平成22年国勢調査（案）	備 考
1 5年前の住居の所在地 5年前(平成7年10月1日)にはどこに住んでいましたか - 平成7年10月1日以後に生まれた人及び現在の場所に5年以上住んでいる人については記入する必要はありません - 他の市区町村の場合は、その都道府県・市区町村名(13大都市の場合は区名まで)も書いてください 13大都市とは、東京都区部と札幌・仙台・千葉・横浜・川崎・名古屋・京都・大阪・神戸・広島・北九州・福岡の各市をいいます 現在と同じ場所 別の場所 区町村 外国 (所在地を記入) 都道府県 市区町村 区 町村	7 5年前(平成 年10月1日)にはどこに住んでいましたか - 現在の場所に5年以上住んでいる人については記入する必要はありません 5年前に同じ市内の他の区に住んでいた場合は、他の区・市町村に記入してください - 他の区・市町村の場合はその都道府県・市区町村名(東京都区部と政令指定都市の場合は区名まで)も書いてください - 平成 年10月1日より後に生まれた人は、出生当時、ふだん住んでいた場所を記入してください 現在と同じ場所 別の場所 区町村 外国 (所在地を記入) 都道府県 市区町村 区 町村	- これまでの国勢調査では、大都市に居住する者については、大都市の区間移動を把握するため、「一般地域用調査票」とは別に、「大都市用調査票」を用意していたが、平成22年国勢調査においては、調査の効率的な実施の観点から、選択肢を共通化し、調査票の統合を図る。 5歳未満の者の人口移動の把握のみならず、出生を機会に発生する人口移動を把握するという政策・研究等の利用ニーズを踏まえ、5歳未満の者の記入の仕方を変更する。
2 教育 教 育 - 現在、学校に在学しているかどうかについて記入したうえで、矢印に従って記入してください - 在学中の人はその学校、卒業の人は最終卒業学校(中途退学した人は、その前の卒業学校)について記入してください 在学中 卒業 未就学 小 学 高 校 幼 稚 園 保 育 所 中 学 旧 中 乳 児 園 保 育 所 短 大 大 学 乳 児 園 保 育 所 高 専 大 学 院 其 他	8 教育 現在、学校に在学しているかどうかについて記入したうえで、矢印に従って記入してください 在学中の人はその学校、卒業の人は最終卒業学校(中途退学した人は、その前の卒業学校)について記入してください 専修学校・各種学校に在学中、又は卒業の人は別にお配りした「調査票の記入のしかた」を参照して記入してください 在学中 卒業 未就学 小 学 高 校 幼 稚 園 保 育 所 中 学 旧 中 乳 児 園 保 育 所 短 大 大 学 乳 児 園 保 育 所 高 専 大 学 院 其 他	専修学校・各種学校は、入学資格や修業年限により学校区分が異なるため、これらの学校の在学者・卒業者の正確な記入を確保するため、「調査票の記入のしかた」を参照する旨の記述を追加する。

平成12年国勢調査	平成22年国勢調査（案）	備 考
3 1週間に仕事をした時間 1週間に仕事をした時間 9月24日から30日までの1週間に、実際に仕事（副業・内職などを含む）をした時間の合計を書いてください 30分以上は切り上げ、30分未満は切り捨てて書いてください		「就業時間」は、「勤めか自営かの別」の「常雇」・「臨時雇」と合せて、雇用者の正規・非正規の就業形態を把握するために、平成12年国勢調査において調査事項として追加した。 - しかしながら、雇用者の正規・非正規のとりえ方については、他の統計調査における経験から、「正規の職員・従業員」、「労働者派遣事業所の派遣社員」、「パート・アルバイト」などの区分が分析の上で有用であることが明らかになってきた。 - このことから、雇用者の正規・非正規の就業形態については、「常雇」・「臨時雇」に代え、「雇用形態」とすることにより把握することとし、「常雇」・「臨時雇」と組み合わせて利用されていた「就業時間」を廃止する。 - なお、「就業時間」については、個人・世帯を対象とする労働力調査や就業構造基本調査、事業所・企業を対象とする毎月勤労統計調査や賃金構造基本統計調査において把握されており、統計情報の代替性が確保されている。
4 従業地又は通学地 従業地又は通学地 - 仕事も通学もしている人は、仕事をしている場所について記入してください - 他の市区町村の場合は、その都道府県・市区町村名（13大都市の場合は区名まで）も書いてください 13大都市とは、東京都区部と札幌・仙台・千葉・横浜・川崎・名古屋・京都・大阪・神戸・広島・北九州・福岡の各市をいいます ○「大都市用調査票」の選択肢 ⇒「自宅」、「同じ区」、「他の区・市町村」 ○「一般地域用調査票」の選択肢 ⇒「自宅」、「同じ市町村」、「他の市区町村」	10 従業地又は通学地 - 同じ市内の他の区に通勤・通学している場合は、他の区・市町村に記入してください - 他の区・市町村の場合は、その都道府県・市区町村名（東京都区部と政令指定都市の場合は区名まで）も書いてください - 仕事も通学もしている人は、仕事をしている場所について記入してください	これまでの国勢調査では、大都市に居住する者については、大都市の区間移動を把握するため、「一般地域用調査票」とは別に「大都市用調査票」を用意していたが、平成22年国勢調査においては、調査の効率的な実施の観点から、選択肢を共通化し、調査票の統合を図る。

平成12年国勢調査	平成22年国勢調査（案）	備 考																																
8 住宅の床面積の合計																																		
住宅の床面積の合計（延べ面積） ・居住室の床面積のほか、その住宅に含まれる玄関・台所・トイレ・浴室・廊下・押し入れなどを含めます。 ・営業用の部分は除いてください。 ・小数点以下は 四捨五入してください。 平方メートル 又は （ ） 坪	(4) 住宅の床面積の合計（延べ面積） ・住宅の床面積の合計（居住室の床面積のほか、玄関・台所・トイレ・浴室・廊下・押し入れなどを含む）を記入してください。 ・営業用の部分及び他の世帯が使っている部分は除いてください。 <table><tr><td>20㎡以下</td><td>20～29㎡</td><td>30～39㎡</td><td>40～49㎡</td><td>50～59㎡</td><td>60～69㎡</td><td>70～79㎡</td><td>80㎡以上</td></tr><tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr><tr><td>80～89㎡</td><td>90～99㎡</td><td>100～109㎡</td><td>120～129㎡</td><td>150～159㎡</td><td>200～249㎡</td><td>250㎡以上</td><td></td></tr><tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td></td></tr></table>	20㎡以下	20～29㎡	30～39㎡	40～49㎡	50～59㎡	60～69㎡	70～79㎡	80㎡以上									80～89㎡	90～99㎡	100～109㎡	120～129㎡	150～159㎡	200～249㎡	250㎡以上										○「住宅の床面積の合計」は、調査票の書き方で分かりにくいと回答する世帯の割合が高い調査事項の一つである。この理由としては、世帯が住宅の床面積の合計を正確に把握していないことによるものと考えられる。 ○実数記入方式及び選択肢記入方式について記入状況を検証したところ、「床面積がわからない」とする割合が実数記入方式のほうが高かったことなどから、選択肢記入方式に変更する。 ○なお、選択肢は、利用ニーズに考慮した詳細な区分とする。
20㎡以下	20～29㎡	30～39㎡	40～49㎡	50～59㎡	60～69㎡	70～79㎡	80㎡以上																											
80～89㎡	90～99㎡	100～109㎡	120～129㎡	150～159㎡	200～249㎡	250㎡以上																												